

晴れた日には出かけよう！ ～まちのミリョクを再発見!!～

24

じょうふくじ ほうきょういんとう
常福寺の宝篋印塔



れいはいくよう ざいか ごくらくおうじょう
礼拝供養すれば、あらゆる罪科も消滅し、極楽往生間違いないし！

緑豊かで穏やかな清流を湛える平井川の中流域、平井の宮本地区に常福寺はあります。春日神社と境内を接しているこのお寺の開創は古く、安土桃山時代の天正年間(1573～1592)にさかのぼる長い歴史があります。宗派は真言宗で、ご本尊は木造不動明王を中尊とする木造不動三尊像です。

不動明王は大日如来の使者で、右手の剣で邪悪な心を断ち切り、左手の網で悪い心を縛り良い心を起こさせ、背中の炎で毒になるものを焼き尽くし、仏道に従わないものを無理やりにも導き救済する役目を持っているといわれます。真言宗のお寺の多くでは、不動明王や不動三尊をご本尊としているところが多く見受けられます。

常福寺の不動明王は、江戸時代初期の作と推定され、全体のプロポーションや細部の造型も良く、近世初頭の不動明王像としてはたいへん優れた作例といえます。ほかに木造弘法大師坐像や木造興教大師坐像などが安置されています。両大師の像は対を成す寄木造りの像なのですが、体幹部の木の張り合わせ方が異なっています。おそらくは像の形状にあわせて工法を変えたのだと考えられますが、近世としては珍しい作例です。



両大師の銅像が守護する常福寺の本堂

境内には宝篋印塔という石造りの仏塔があり、昭和53年(1978)に「常福寺の宝篋印塔」として町の有形文化財に指定されました。宝篋印塔というのは、墓塔や供養塔に使われる石塔の一種で、宝篋印陀羅尼というお経を納めたことからこう呼ばれているそうです。礼拝供養すれば、あらゆる罪科も消滅し、極楽往生間違いないとして信仰され、鎌倉時代以降に宗派を問わず造られるようになりまし。一般的な造りは、下から反花という台座、四角柱の基礎と塔身、四隅に隅飾という突起の付いた笠

と積上げ、最上部に棒状の相輪が乗っています。常福寺の宝篋印塔は、総高が5m超あります。基礎の上に反花があり、請花を挟んだ塔身が2段重ねに置かれています。ところが笠の隅飾がないので、外見上は多宝塔と呼ばれる仏塔に近い形状をしています。しかし造立銘文の書き出しには宝篋印塔と記されており、内部には経文が収められていることから宝篋印塔であるとされました。



常福寺の宝篋印塔

れにしても「極楽往生間違いない」とはなんと霊験あらたかな響きでしょう。平井川中流域の北岸は常福寺のほかにも由緒ある仏閣や神社が多くあります。町歩きの散策コースに加えてみてはいかがでしょうか。

アクセス

常福寺へは「中平井」バス停下車、徒歩6分です。
志茂町児童館前の道を下り、千石橋を渡りすぐ左です。



目の出WALK(観光マップ)【L-7】

